一橋陸上競技倶楽部理事会議事録

日時　：　2019年5月27日（月）　18:30～20:15

場所　：　如水会館　14階　梧桐

出席者（敬称略）：

（理事会）浜田、岩瀬、大鳥羽、井田、陶山、日渡、伊丹：後藤顧問：建部監事

１、報告事項

1. 関東IC

今年はエントリーも13種目（リレーがあるので実人数では17～18名）とこれまでになく多く出場できた。110mHでは佐藤主将が学内新、800mでは清崎君が自己新、800mや10000m競歩では各3名ずつ出場でき、その他種目でも数々健闘、素晴らしい記録が出たのは大変喜ばしい。

1. グラウンド・投擲囲い関連

トラックで花火遊びをした跡形があった。部外者の仕業だろうと思われる。また、走高跳のピットで学生が大勢で縄跳びをしようとしていたので注意喚起した。いずれも残念極まりないことが発生した。投擲囲いに貼付する渡邉先輩の銘板が出来て来たので近い内に貼付する予定。同時に囲い界隈での危険防止のために「関係者以外立入禁止」表示版を赤色コーンキャップに渡す複数のバーに取り付けた。風速計の検査もNISHIによって実施され合格を確認した。

1. 年会費の徴収状況

　カード引落し会員で金額の自己申告が返送されてきたのが今現在で20名余。昨年通り1万円引落しを希望する人は「返信不要」としてあることから、返信があった20名余は最低でも12,000円、3名の方が30,000円を申告されてきている。一方、振込み会員の振込み状況を昨年同期比で比較すると、昨年5月末時点で87名88万円に対し、今年5月22日時点で69人91.6万円という状況。人数という観点では今現在においては出足不調だが、納付金額の観点では奏功している。

1. 検討事項
2. OBOG戦・懇親総会について

席上配布された案内文案で基本的に了承され、早急に発送準備に入る。因みに、3月の決算総会は若手OBOGが殆ど出席して来ない状況になっており、若手OBOGの参加を誘い出す対策として6月総会（OBOG戦と新入生歓迎会）を設けた経緯がある。

1. OBOG訪問について

OBOG訪問を今年も実施する旨の事前お知らせ文書（案）について、送付対象をどうするかが議論された。そもそもOBOG訪問の本来的目的は、OBOGと現役とのコミュニケーション強化にある。さらに年会費徴収強化という目的も重要な活動という観点に立ち返って、お知らせ文書（原案）はカード引落し会員を対象に含めていない。しかし、これだとコミュニケーション強化という理念から逸脱するという問題が残る。議論の結果、卒業年次で偶数年、奇数年に2分し、今年2019年は奇数年組、来年は偶数年組といった振り分けにして、学生の負担も軽くすることによって訪問活動の実質的意義も高まり濃厚になると結論。文面もそうしたことを記載し、OBOGに広く告知する。

昭和52年卒業以降で、且つ、首都圏（東京、千葉、埼玉、神奈川）勤務で、且つ、カード引落し会員も対象に含める前提で、訪問対象者リストを偶数年卒と奇数年卒に分けて修正する。

学生が訪問しやすくするために訪問ツール（競技会や対校戦の動画等）の作成準備も必要だ。さらに動画をアップロードした『URL』及び後日振り込むよというOBOGの為に『振込先銀行口座』を書いた名刺サイズメモの準備も検討に値する。そういう名刺サイズメモを訪問時に渡しておくことによりOBOGは時間ある時に動画を見てくれるであろうし、銀行振込みも忘れずにやってもらえるだろう。

また、今年は集金時の金額が一律ではなくなるので、「領収証」をきちんと学生に持たせて訪問するようにしたい。また「交通費」一覧表もイメージとして学生に提示することとする。

学生への説明会を開催するタイミングだが、年会費振込みとカード引落し金額申告が6月末で一旦様子が判明するので、7月頭位に開催できるように学生側とも相談して決める。説明会の場で、訪問活動はだらだらと行うのではなく、例えば9月いついつまでに完遂するというように期限設定を明確にすること。

1. 会則・慶弔規定の見直しについて

理事の定員枠を15名に増やすことの検討に入りたい。田島理事が退任、建部理事が監事に異動などもあり後任理事を補充する必要が生じている。この際に、幅広い視野や専門的視野から意見を出してもらうために、弁護士をしている理事や女性理事も検討したい。

**3、その他**

中村（英）理事からメールで提案があった「本学を受験しそうな有力な高校生陸上競技部員に向けて積極的に郵便で勧誘活動をしたい、その郵便コストをOBOG会で持っていただけないか」の件については、賛同を得た。

　以上